

聴覚障害小学生を対象とした手話習得集中合宿の試み

○久保沢寛
(NPO こめっこ)

河崎佳子
(神戸大学大学院)



〈表1〉4日間のプログラム

	1日目	2日目	3日目	4日目
朝		スポーツ 全員で相談し、種目を決めて実施。都度、ルールや説明などを確実に理解して進める。	<手話企画> ディスカッション② 子どもペアで/スタッフを含むグループで	室内 遊び 解散
昼	オリエンテーション 施設職員の説明を手話通訳を介して理解する。	工芸体験 道具の使い方を学び、協力して作品を完成させる。	自然体験② 飯盒炊爨 役割分担を決め、協力して、会話を楽しみながら体験	
夕	<手話企画> 「きゅっとものがたり」にチャレンジ	<手話企画> ディスカッション① スタッフとペアで	<手話企画> ショート手話劇伝言ゲーム	
夜	星空ウォッチング 手話通訳を介して、星座や天体観測器具の使用方法を学ぶ	自然体験① バーベキュー 役割分担を決め、協力して、会話を楽しみながら体験。 花火	キャンプファイヤー 3日間の体験の振り返りと共有	

全ての活動が、手話母語者のろうスタッフの日本手話に触れる時間となっている。4日間の活動は全てろうスタッフ主導で進行した。

【目的】

〈背景〉

・2017年6月～ 大阪府手話言語条例に基づく施策として、聴覚障害(ろう・難聴)未就学児とその家族を対象に、乳幼児期手話言語獲得支援事業「こめっこ」を、月2回土曜日午後実施。(2017年6月～2020年3月日本財団助成事業、2020年4月～ 大阪府委託事業)
・2020年4月～ 「手話言語を獲得・習得する子どもの力研究プロジェクト」(日本財団助成事業)の一環として、小学生を対象とした手話言語習得支援活動「もあこめ」を、月2回土曜日午後実施。



日本手話のスキルアップと、「もあこめ」活動への参加意欲の向上につながることをねらいとして、「手話習得集中合宿(以下、手話合宿)」を実施。その内容と成果、今後の展望について報告する。

【方法】

(1)対象児：2017年「こめっこ」開始当初(当時4歳)から、継続して活動に参加している小学5年生の聴覚障害児4名(男女各2名/中等度難聴1名、高度難聴1名、重度難聴1名、いずれも補聴器装着。人工内耳装着の重度難聴1名)

(2)期間：2023年8月21日～24日(3泊4日)

(3)支援スタッフ：ろうスタッフ4名(日本手話母語者1名、日本手話習得者2名、対应手話使用者1名)、日本手話を習得している聴スタッフ1名(必要に応じて、手話通訳を担当)。

(4)内容：4日間のプログラムを表1に示す。特に日本手話の習得をねらいとして計画された活動(手話企画)は次の3つである。

①物語の手話要約「きゅっとものがたり」にチャレンジ
「きゅっとものがたり」(日本手話ならではの表現、リズムで物語のエッセンスを要約した作品)を練習し、覚えて披露する取り組み。子どもがチャレンジを拒む場合は、スタッフがチャレンジする姿を観察する。

②ショート手話劇の伝言ゲーム
子ども同士のペアを作り、一方(A)のみがスタッフの演じるショート手話劇を鑑賞。その後、(A)は、待機していた相棒(B)に劇の内容を手話で伝達。(B)は理解した内容を全員の前で報告し、その正確さを競う。

③ディスカッション(テーマトーク)
ろうスタッフと子どものペア、子ども同士のペア、ろうスタッフと子どもを交えたグループの3パターンで、用意されたテーマについてディスカッションを行う。自分の考えを伝え、相手の考えを知り、やりとりを深める試み。話した内容は、最後に全体で共有する。

【結果と考察】

◆手話合宿中の様子

- ・すべてに手話があることで理解や情報共有に要する時間が短縮され、スムーズに物事が進行した。
- ・子どもたちがスタッフの手話のやり取りを観察し、次の段取りを理解して自発的に行動していた。
- ・内容がわからずに戸惑う状況がない「デフ・スペース」が保障され、子どもにとってもろうスタッフにとっても、ストレスフリーな環境でプログラムを楽しむ体験ができた。
- ・健聴者対象に考えられたあそびのルールに修正を加え、ろう・難聴児が楽しめる工夫を子どもたち自身が提案した。

◆手話合宿をとおして見られた子どもたちの変化

- ・手が自然に動くようになり、手話での会話時間が増加した。

◆保護者からの、子どもたちに関する報告

- ・「夏休みで一番楽しい体験だった」「まだまだ帰りがたくなかった」と言っていた。
- ・通っている地域の小学校で体験した宿泊学習と比べて手話合宿はどうであったかを問うと、「楽しみに決まっている」と言い、その理由を、「誰にも気を使わず、気持ちが疲れず、リラックスして過ごせるから」と語った。
- ・「居心地がよかった」、「色々知ったのでビックリした」と言っていた。
- ・合宿以前にはなかった手話表現をするようになった。
- ・合宿以前より手がよく動き、手話表現が速くなった。



◆手話合宿の効果

- ・自分らしく自然体で過ごせる快さ、自己効力感を体験。
- ・きこえない(目で生きる)自分に関する自己認識やアイデンティティ形成にも役立つ経験となった。
- ・合宿後の活動にも、生き生きと積極的に参加している。

【今後の展望】

今後は、幼児期から「こめっこ」に通っている小学生全学年に対象を広げて実施していく。低学年と高学年に分けて、年齢や発達に合わせたプログラムを作成し、その効果を検討していく予定である。